

選考委員会における委員のコメント

羽衣学園高等学校

「著作権を意識して『私たちのまち』をデジタルストーリーで発信しよう～情報活用の力をつける、伝えたい事を相手に伝える～」

- 同じ内容の授業ができるように初めに教員の連携を図ったうえで著作権の授業を実施したこと、授業で学んだことをまとめていることについて評価する。ただし、生徒より教員の著作権教育に役だった内容のようにも思われる。
- 校内での連携を図っており、共通の指導案やワークシートが用意されているので、他の学校で実践する際にも参考になる。無料で入手できる様々な教材を活用している点もよい。作成したデジタルストーリーを、校外（国内外）で発表する場を設定することで、著作権について学ぶ必然性が生まれている。とてもダイナミック展開であり、資料も多く添付されているが、実際の活動の様子や生徒の変容についてイメージできるように記述されているとよいと感じた。
- 各種の教材を使い発展的な取り組みをやっているが、教師主導で生徒自身の実践の姿や作品がもうひとつ見えないのが気になった。
- 作品制作を通じた著作権に関する学びという典型的な実践。相手を具体的にイメージして「伝えたいことを伝える」というテーマで、生徒の真剣な取り組みを促し、さらに著作権について体験を通じて実践的に学び考える活動を取り入れている。複数の教員が同じ内容で同じ授業を展開できるという授業手法の標準化を意図して、それに成功したことを高く評価したい。
- 校内の職員とも連携を取りながら、多種にわたる著作権教育を実践していること、著作権指導における板書例や指導計画がよく明記されていること、他の著作権資料やコンテンツも取り入れながら、多角的に著作権教育を実践していること、ワークシートや補助プリントがしっかりしており、実践しやすい内容になっていることを評価する。
- 生徒が制作した作品を地域や海外にまで発信して意見の交流をすることで、情報発信者としての立場から著作権を理解させている点は秀逸である。また、得意な教員が一人で授業を行うのではなく、情報科の教員が同じ内容の授業を行えるように授業をデザインしたり、教材を開発したりしている点も評価できる。
- 学年全体で共通の指導ができるワークシートは必要であり、DVD 教材を使用することで知識のレベルを統一することができるのは良い。また、外部の生徒や保護者へ説明するデジタルフォトストーリーを作成することから、1クラス内での発表で終わらず、生

徒は、社会へ発信するという意識を持ちやすい。故に、「作成する」ときに必要な著作権の知識と、「発信する」ときに必要な著作権の知識を整理して実践されると、より効果が高まったであろう。さらに、英語教育など他の科目を網羅しながら著作権を意識した授業となっているのも良い。

- 著作権を意識して、“私たちのまち”をデジタルストーリーで発信しようというテーマでの実践。ネットワーク活用の利便性と危険性についての学習。情報セキュリティの重要性と共に、著作権に対してもしっかり学んだ。カリキュラム開発も考えるなど、今後の継続に対する意欲も強い。
- C R I Cの教材を適切に活用し、指導案・ワークシートが充実している点、作品製作の学習と共に著作権についてしっかり扱っている点が評価できる。課題として、話し合い活動が指導案の中にあるが、どのような話し合いが展開され、生徒がどのように変容したのか具体的な記述がほしい。

以上